



宇都宮市立泉が丘小学校 学校だより

◇ 教育目標・合言葉 ◇

「しっかり学 ぶ」「よいよく生かす」
「なかよく生きる」「元気でがんばる」

令和6年度 第6号 10月22日

発行者 引地 健二

いずみ



第2学期がスタートしました！！

※ HPではカラーでご覧になれます。



〈 越戸せせらぎ通りのコスモス 〉

5日間の秋休みが終わり、10月17日（木）から第2学期がスタートしました。2学期は、修学旅行や校外学習、市陸上競技大会、土曜授業などの行事があります。マイコプラズマ肺炎のり患者が少しずつ出てきたり、インフルエンザの流行も気になったりと感染症については気を抜くことができませんが、予防には十分配慮しながら「実りの秋」となるよう、教職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。1学期同様、保護者の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



～ 10月23日（水）はノースマホ・ノーゲームデーです ～

携帯電話を持つ小中学生が増える中、長時間利用や深夜利用により生活が乱れたり、有害なサイトへのアクセスによりトラブルや事件に巻き込まれたりするなどの問題に社会全体で取り組み、将来を担う宮っ子を健やかに育ててくため、宇都宮市では「スマホ・ケータイ共同宣言」に基づき、様々な運動を推進しています。

10月21日（月）～27日（日）は、「スマホ・ケータイ宮っ子ルール徹底週間」です。スマートフォンや携帯電話・タブレット等を安全に、そして安心して活用させていくために、各家庭に配付しました「宮っ子ルール共同宣言」の4つの約束を基に、家庭でのルールを見直してみてください。

【保護者の役割】

スマホや携帯電話は便利な道具ですが、使い方を誤れば様々な問題を引き起こしたり、危険に巻き込まれたりする可能性があります。また、タブレット端末や携帯型ゲーム機でもトラブルが起きうることになります。ゲーム機はゲーム以外に動画視聴、メール等のコミュニケーション、音楽視聴、情報検索等、様々な使い方をしていることが内閣府のアンケート調査からも示されています。

また、問題の低年齢化も顕著になってきています。保護者の皆様には、「ノースマホデー」の日を活用し、安全・安心に使用できるよう、お子さんと一緒に話し合っていたいただきたいと思います。

- ・使っている機能について、本当に必要ですか。
- ・契約している内容は適切ですか。また、フィルタリングの設定をしていますか。
- ・お子さんが、どのようなケータイ・スマホ・ゲーム機等の使い方をしているか知っていますか。
- ・家庭でのルールを決めていますか。

最近の泉っ子 ～ 行事等の様子 ～

◆ 朝会等でのスピーチタイム 10月11日（水）

本校では、国語科の「話すこと・聞くこと」の発展的活動として、各学年の発達段階に応じた内容で全校児童に向けてスピーチしたり、異学年のスピーチを聞いたりして伝え合う力を高める活動を行っています。

1学期の終業式の日には、1・3・5年生の代表児童が、1学期に学んだことや2学期に向けての抱負などを発表してくれました。内容も表現の仕方もとてもすばらしく、全校生から盛大な拍手を受けました。



◆ 演劇鑑賞会

10月18日（金）

劇団「らくりん座」による演劇鑑賞教室を実施しました。公演作品は絵本でおなじみの「あらしのよるに」。ヤギとオオカミの友情を描いた作品ですが、間近で迫力ある演劇を見ることができ、子供たちにとって心に残るすばらしい体験になったのではないかと思います。また、何と劇団員の中に本校の卒業生もいました。6年生のときに演劇の道に進むと決め、現在に至るそうです。劇の終了後に子供たちは知り、驚いていました。



2学期の始業式で話したこと(要旨)

今日は1冊の本を紹介します。「あおくんときいろちゃん」という絵本です。この本を書いたのは、レオ＝レオ二さんという人です。

主人公は「あおくん」。たくさん友達がいます。一番の仲よしは「きいろちゃん」。ある日、「あおくん」は買い物に出かけるお母さんから留守番を頼まれました。でも、遊びたくて仕方ない「あおくん」は外へ出てしまいます。そこで出会ったのが「きいろちゃん」。2人は、うれしくてうれしくて一緒にいるうちに、緑になってしまいました。この後も、まだまだお話が続きますが、今日はここまで。

この話は色と色が一緒になると新しい色ができることを教えていますが、実はそれだけではありません。人の心や考えを表していて、人と人が触れ合ったり、一緒に何かをしったりすることで、違った気持ちになったり、新しい考えが生まれたり・・・そんなことを教えてくれている・・・とされています。

まず一つ目。人に話しかけたり、何かしてあげたりすることで、互いの気持ちが少し変わるということ。1学期の通知票の中に、挨拶をすると自分も相手もよい気持ちになるから、進んで挨拶をしようと考えている・・・ということが書かれていた人がいました。気持ちのよい挨拶をすれば、相手は明るい気分になりますし、言った自分も明るい気分になります。最近、みなさんの挨拶の声が大きくなってとても気持ちがよいです。でも、声が出なかったり、頭を下げたりするだけの人もいます。明るい挨拶が響く学校にしたいので、みんなでがんばっていきましょう。それともう一つ。人に優しくすることで、相手だけでなく、自分もうれしい気持ちになることがよく分かっている・・・という言葉が書いてあった人もいました。友達に親切にしたり優しい言葉を掛けてあげたりすると、相手はもちろんうれしく思いますし、相手が喜びのを見て、自分もうれしくなります。相手にとっても自分にとっても幸せなことなので、挨拶をしたり人に親切にしたりしようというのは、素敵な考え方だと思います。

二つ目。人と人が考えを出し合うことで、新しい考えが生まれるということ。「あおくん」と「きいろちゃん」のように、違った色を合わせると、そこになかった新しい色ができます。みなさんが友達に相談するのも、話合いで自分の意見を発表し合って考えを深めるのも、これと同じことではないかと思っています。調べて分かったことを伝え合えば、もっともの知りになることができます。自分が考えた問題の解き方を教え合えば、それぞれのよいところを取って、もっとよい考えが浮かぶかもしれません。そうしないのは、とてももったいないと思っています。

授業中も係や委員会活動でも、話し合うことを大切にして、勉強や生活をよりよいものにしていけるとよいと思います。みなさんが友達と仲よく過ごし、協力し合うことで、心も頭も大きく成長することを期待しています。



■ 雑感 ～能登半島・輪島市のボランティア活動に参加して～



秋休みを利用し、石川県輪島市の被災地のボランティア活動に参加してきました。実際に自分の目で地震や水害の状況について見てきたかったということと、少しでも被災した人たちの役に立ちたいということで行ってきましたが、実際に現地を見てみると、被害の大きさに驚くとともに手付かずの場所が多いことに愕然としました。(下の写真のような光景が地域のあちこちで見られました。)活動してきたのは輪島市町野町というところでしたが、地域の人口は約5000人。その中で自分の家で生活できている人はほとんどいないということでした。仮設住宅か親類等の家で生活しているとのこと。つぶれていたり傾いていたりする家が多いこと、さらに水害で家の1階の高さ1.5～2mくらいのところまで水没し、その時の土砂が溜まったままになっているというのがその理由です。また、電気も水道も通っていないところがたくさんあり、この状況では生活再建は難しいと感じました。私は土砂のかき出し作業をしてきましたが、豪雨から約1か月たっても土砂がまだまだ取り除けない現状はとても厳しいものがあると思いました。ボランティア活動を仕切っている社会福祉協議会のスタッフは、「雪が降り、その重みでさらに家の倒壊が進んでしまう。冬になる前に何とかしたい。」と話し、ボランティアでも寄付でもよいのでぜひ協力をお願いしたいということを最後の挨拶で伝えていました。

地震や水害により多大なる被害を受けた現地住民の皆様には心からお見舞いを申し上げますとともに、今後、本校の子供たちには、地震や水害の怖さ、そして速やかに避難することの大切さなども伝えていきたいと思っています。また、学校としてできることがないかということも考えていければと思っています。

